

★今年、新しい映像クラブへの幕開けの年

OMCの皆様、明けましておめでとうございます。世の中はまだ不景気風が吹き荒れて何かと悩み多い方もおられると思いますが、そうしたストレスを忘れるためにも映像趣味は有難い存在でもあります。月1回の例会が待ち遠しいとなればクラブの存在価値も高まるとういうもの。しかし昨今の8ミリフィルムを取り巻く環境は厳しく、作品づくりも容易ではありません。例会の出席、出品数共、毎年低下するばかりです。そこで、今年から遂にビデオ併用が打ち出されました。これで古い会員さんが戻ってこれ、映像作品づくりに情熱を持っておられる若手が入ってくるようになれば、会の前途も明るくなります。

しかし、ビデオ併用の運営をしていくためには、いろいろと課題があり、それを一つひとつ解決していかなければなりません。それが今年初年度の大きな仕事です。皆、知恵を出し合い、協力し合って立派に軌道にのせようではありませんか。

まず、会の性格づけを明確にしておく必要があります。OMCの歴史と伝統から言っても8ミリフィルム作品、特に新作は優先されなければなりません。この時間枠を例会のトップにするか後半にするか等もルール化したものです。ビデオ作品も、あるクラブのように何でもかんでも受付けていたのでは時間も足りません。何だ、ビデオはつまらない、と会をやめていかれる人も出るでしょう。やはり作品本位にしたいものです。公開映写会もビデオ併用となるとなさらず。先日東

京安田生命ホールで観た東京映像公開映写会では大変面白いビデオプロジェクターで、技術の進歩を実感しました。ただ、こういう最新の機材をどう調達するかは課題です。機材と言えば例会で使うVTR機材のこともまだ未解決です。また、新入会者のことも野放しと言うわけにはいかないでしょう。複数会員の推薦とか、世話役会で決めるとか、ルール作りが必要です。

とにかく楽しい会へ発展していきますように皆さんの格別のご協力をお願いします。

☆12月レポート 本年最後の例会とあって小倉氏以下15名の参加と8本の作品が寄せられ、こんなに作品が集まるのなら今後も心配ないのだが、という声も聞かれた。

上映；「信仰に燃える山」金子氏 Si M 5分半。先月の再編集版。よくなったが若干の指摘も。「寧楽の響き」細見氏 Si M 9分。重厚な音楽に異論続出。「都心の秋」村田氏 Si M 5分。美しい御堂筋、選曲に難ありの声。「日だまり」江村氏 Si M 3分。江村氏らしい日だまりが欲しいとしばし話題。「極北の大自然」小倉氏SuT 17分。思うように撮れなかったと作者。「ひと区切りの旅」合原氏Si M 18分。氏の新作だが細かい点で指摘あり。

「ふるむなあどころべ」関氏SuT 10分。公開映写会出品作。「羽衣女房」増田氏Su T、8ミリ全盛時のフジ撮影会時代劇作品。打ち上げは恒例の喫茶店で二次会。

☆1月例会は20日18時20分。なにわ会館 206号室。部屋が変わるので要注意。フィルム、ビデオ作品お持ち下さい。多数のご来場期待。

OMC News

発行 大阪ムービーサークル事務局 小倉宝蔵

46.2 〒531 大阪市北区長柄東2-1.21-204
1994 No.338 TEL (06)357-7281

☆OMCビデオ元年開幕の印象

平成6年1月例会は、従来の第4土曜から第3木曜に繰り上げて、なにわ会館で行われた。曜日が替わったことで出席者数が心配されたが、常連の方が1~2名姿を見せられなかった反面、ビデオ併用ということで会員でありながら今まで欠席されていた越本さん等の出席もあって、ほぼ同数の出席数となった。まず8ミリ優先ということで村田氏の新作「京の初春」を上映したが、8ミリ制作はこれ1本の淋しさ。リバイバル作品があと1本あったが、ビデオのあとにしょう、ということになって注目のビデオ上映に入った。さすがに出品数も多く、作品もバラエティに富みレベルも高い、という印象を受けた。ひと頃の画質の悪さも今では昔語りとなっていて色もシャープさも技術の進歩は目をみはるものがある。また、会員は皆、8ミリで鍛えた作品づくりのうまい方々。ビデオになっても安心して見ておられる。

ただ、ビデオから始めた人や一部外部のビデオ指導者?からみれば、8ミリから脱却していない、との評価しか得られないかも知れない。云われてみれば確かに、8ミリ作品と同じく、ただビデオに置きかえただけじゃないか、という感じがしないでもない。しかし映像を楽しむクラブ会員としては、別にビデオになったからと云って作風を転換する必要もなく、ビデオの特徴を加味しながら今まで通りの方針で映像作品を創っていけばよいと考える。要は何を云いたいのか、何を表現しようとしているのか、しっかりした作品構

成が映像作品の基本であることは同じだろう
☆小倉会長、近畿中央病院へ入院。手術も無事にすんで、ただ今病室で体力の回復まち。来月は元気で復帰されるでしょう。(9日)
☆1月例会レポート

寒波きびしい日が続く。例会日の20日も寒い日だったが会員の集まりはますます。会場にはテレビがデンと据えられお膳立も万全。出席 増田・前田・上総・岩井・江村・桐田・越本・村田・金子・有村・関・森・合原13名。上映8ミリの部「お正月」村田氏sim10分、祇園や八坂神社等のお正月スナップ。タイトルのつけ方に一工夫ほしい所。リバイバル作品「金沢見て歩き」桐田氏sut15分。12年前の氏の努力作。“せあみ”は“ぜあみ”と呼ぶと指摘あり。

ビデオの部「疎水べり哲学の小道を歩いて」森氏10分。某撮影会作品、丁寧で安定した画面。教科書的だが主人公の出演が中途半端なのは残念。「ハワイの思い出」有村氏7分。難しく云わず楽しく気軽にまとめられた作品。「青森ねぶた総括編」越本氏10分。さすが暗いところに強いビデオの威力。ねぶたの“ぶ”は“ぶ”が正しいとの指摘あり。「水の競演」合原氏5分。浜離宮でのUX1カメラのテスト版。「冬枯れ」前田氏7分。淀川べりでの映像詩。話題のつきない作品だった。「WINDS」関氏8分。音楽のテンポにうまく合わせた見事な編集ぶりに脱帽。閉会后いつもの通り二次会へ直行。

☆2月例会は第3木曜17日18時20分。
なにわ会館。作品ご持参多数ご来場願います

☆プロカメラマンの心構えに学ぶ

先日プロのビデオカメラマンと同行する機会を得たが、いろいろアマチュアとして見習うべき点が多いことに反省させられた。アマチュアは旅先等でビデオカメラが動かなくなると、すぐ故障だ、もう自分の手に負えないとあきらめてしまう人が多いが、プロは映像でメシを食っているのだから簡単にはあきらめないというのだ。アマチュアがテープがどうしても動かないとあきらめたとき、何故テープを取り替えてみなかったのか（テープに原因のある場合がある）、電池を交換してみなかったのか（バッテリー切れということもあり）カメラを軽く叩いただけで動く場合だってある…等々。プロはあらゆる手を使って何とか動かす努力をするという話だった。もっともな話だが、行き着くところはカメラのメカに対する普段の研究心が必要だなあ、というのが私の得た教訓であった。（合原記）

☆小倉会長無事ご退院

近畿中央病院へ入院、胃の手術をされた小倉会長は3月2日無事退院された。おめでとうございます。この上はひと時も早く体力を回復されて例会にもお元気な姿をみせて頂きたいものである。

☆2月例会レポート

さすが2月例会の頃はまだ寒気が厳しいが会場のなにわ会館は、ほどよい暖房が効いてまるで春のよう。ビデオ作品がフィルムを上回ってきたが、早くS・VHSビデオデッキを取り揃えたいものである。なお今月は小倉会長、司会の有村氏、記録の合原氏共にご欠席のため、かわって関氏がピンチヒッターで司会を、上総氏が記録を担当された。

出席者：森・金子・岡本・花岡・桐田・関・増田・春日・岩井・越本・上総・の11氏。

フィルムの新作なし。ビデオから上映開始。

I. ビデオの部

①「鳥たちの楽園・混陽池」森氏、8分。4年前の作品。いろいろな水鳥たちの生態と餌付けなど丁寧に撮られているが、全体にロング・ショットが少ないので全体像の説明不足か指摘された。航空機の爆音も何とかならないか等意見あり。②「余呉早春」関氏9分。旧作品の再編集、湖にまつわるポエム作品、音処理も鮮やかだが、作者はまだ長いので更に縮めたいと…。③「姫川誕生」越本氏15分。国民文化祭入選作。姫川の源流、白馬村の景色と溪流など丹念に撮られた秀作。いい作品だけに、ナレや録音のことで参考意見が多く出された。④「沖縄」岩井氏、7分。沖縄を紀行風にまとめられたが、締めくくりをもう少し丹念にしては、との意見あり。60分撮られたそうだから再編集をお勧めしたい。

II. フィルムの部（リバイバル作品）

①「水の都のお祭りだ」桐田氏、sum 8分。9年程前の作品。松江市の12年に1回ある珍しい祭。船渡御だけだが、撮り足すにしても12年に1度の機会では、と作者の弁。しかし再編集されたら更に良くなりそう。②「ゆしまの白梅」岡本氏、sum 6分。関小連主催の歌謡映画、楽しく気軽に観賞。

☆3月例会は17日第3木曜18時20分。なにわ会館、作品持参多数出席ねがいます。

OMC、関西シネクラブ様

'94映像フェスティバル実行委員会事務局

'94合同映写会について

'94年度OMCと関西シネクラブとの合同映写会開催について、去る 3月27日実行委員会を開催し、次のことを決定しました。

記

① 実行委員会委員

小倉、合原、有村、前田、羽田、関、上総。(敬称 略)

委員の互選により、実行委員会委員長に小倉氏が指名された。

② 合同映写会の名称変更について

本年度よりビデオ導入のため、会の名称をどうするかという検討を行った。

名称を次のように変更する。

第2回OMC、関西シネクラブ

'94映像フェスティバル

③ 開催日の決定及びビデオ併用の問題点とその解決について

OMCが長年使用してきた「朝日生命ホール」にビデオ設備がなく、使用機材の借入れ、設営の問題点など検討の結果、ビデオ設備のあるホールを優先的に使用する方向で、会場探しをする事になった。

会場の選定を、小倉、上総、関の3氏に委任。

開催日は10月下旬を目途として、会場との関連で最終決定をする。

(作品の募集〆切は、8月末か 9月上旬頃の予定)

④ 予算について

各クラブの分担金は、決定した会場との関連で決める。(昨年度は6万円)

参加費(出品料)は昨年並の15,000円

⑤ その他

主な事前の作業日程、役割分担など次回実行委員会で決める。

上記の決定に従って、小倉、上総、関の3名で会場の選定を行った。調査・検討の結果、下記の会場を候補として、会員の意見も聴取して決定することになった。

候補会場の概要

A. M・CUBE (エム・キューブ)

大阪市中央区心斎橋筋1-6-5 ミュージックマーケットミヤコ3階。

- ・多目的ホール。椅子搬入 最大200席
- ・ビデオ200インチ(3管式)。
- ・使用料 平日 5PM~9PM 160,000円(照明、音響の基本設備料、技術員費を含む)

評価

200インチビデオの映像の効果はよく、音響の設備は優秀。

会場は心斎橋筋・大丸の南側で場所もよく、会場内の雰囲気もよい。但し、200席と会場がせまい。

舞台が低く、ビデオスクリーンが舞台の前面に出ており(ビデオが固定式でスクリーンの移動が出来ない)、画面の下部が見にくい。

8ミリ映画の映写は、舞台奥の白布を利用できるが、マスクもなく映写効果が悪い。

B. OVAL HALL (オーバルホール)

大阪市北区梅田3-4-5 毎日新聞ビル地下1階。

- ・楕円形の多目的ホール。最大480収容。ステージ間口10m.
- ・S-VHSビデオ設備あり。ビーズスクリーン(甌式 2241×4430)。
- ・使用料 233,500円。

会場費平日 5PM30~9PM 160,000円+ 5PM~5PM30<観> 17,500円。計 177,500円。

付帯設備使用料 56,000円

椅子 17,500円(70円×250脚)。 S-VHSビデオ 15,000円。

マイク、受付用テーブル、看板掲示用等 5,500円。

オペレーター 18,000円(3,000円×2人×3時間)。

評価

フロアは広く雰囲気も申し分なし。地下への階段、ロビーも広く整っている。

ビデオ設備、音響設備も整っている。

足場が少しよくない。会場費が高くつく。

C. 朝日生命ホール

- ・使用料 約 150,000円 (会場使用料+付帯設備使用料)

従来からの使用ホールで、会場としては最適である。しかし、ビデオ設備がなく、このホールを使用する場合は、ビデオ機材を準備搬入する問題が生じる。

★堀池さんのご冥福をお祈りいたします

去る 3月24日、かねて自宅療養中の堀池さんが81才の生涯を安らかに閉じられた。何でもお風呂に入ったまま、時間がたつので家の人が様子を見に行かれたところ、浴槽で息をひきとられていた由。ご家族の驚きは如何ばかりであったろう。

思えば堀池さんは本当に8ミリ好きな人であった。DS 8の思いカメラを担いで撮影旅行や撮影会によく出かけられていた。堀池さんが8ミリ撮影会に最後に参加されたのはCFCサロン全国撮影会・高知大会で3年前であった。あのときはさすがに軽いシングル8・518SVをお持ちであった。

堀池さんはOMCの例会には殆ど顔を出されていた。例会前に上六のうなぎ屋へ寄り、うなぎを召し上がりながら日本酒を呑まれるのが何よりの楽しみようで、時々誘われて8ミリ談義に花を咲かせたものであった。ほんとにうなぎの好きな方であった。またお世話好きで新年会の段取りなど率先して、その世話役を引き受けられていた。何か会の為にお役に立ちたいとの思いがあったのであろう

堀池さんの8ミリ作品は例会ではあまり見かけなかったが、まとめるより撮影するだけでご満足だったのかもしれない。OMC公開映写会用にと氏が佐原におられた頃、香取神社例祭を記録されたフィルムを「12年ごとの祭」と題して私がまとめてあげたことがあったが氏自身のナレーション入り最後の作品となった思い出の作品だ。堀池さんのご冥福をお祈りします。(合原一夫記)

★3月例会レポート

今年の冬は寒さがいつまでも長引き、お水取りの季節というのに春の気配がこない。しかしもう間近と思いたい。

3月例会は第3木曜17日、なにわ会館で行われたが、小倉会長が退院されて元気な姿を見せられ、一同ホットする。一方、広報担当の合原氏が左耳が急に難聴になり入院されて欠席との報告。しかし経過よく近く退院の由上映：8ミリの部；「当麻寺」村田氏、Si M 12分35秒、随心院のおねり供養と牡丹、桜の花などの未編集作品。完成が期待される。

「はねず踊り」村田氏、Si M 6分。梅の季節の随心院での野点、琴、尺八の演奏、はねず踊りなどだが、ピント不良箇所が多く構成見直しと共に再編集されてはとの指摘があった「寒風」江村氏、Si M 4分37秒。水郷近江八幡での取材、葦、水辺、空などポエム調を狙ったが表現不足と作者。その通りと冷やかしの声。助言多数あり。完成が楽しみだ。

ビデオの部；「勝竜寺公園」森氏、8分半姫路映像コンテスト、テーマ「城の部」3位入賞の努力作、入賞おめでとう。「白馬大好き70歳の青春」越本氏15分。白馬での奥様の様子、楽しく拝見。「冬の鳥たち」有村氏、4分40秒。鴨川ユリカモメ、北海道の水鳥と鶴、美しい歯切れのよい画面。「冬の湖」関氏 6分15秒、見事なポエム作品に脱帽。「二月堂籠松明」上総氏10分。未編集だが去る12日に撮られたばかりの映像。完成が待たれる

☆4月例会は第3木曜21日18時20分。なにわ会館、後期会費納入月、よろしく願います。

★ネパール・トレッキング紀行, 合原一夫

この5月連休を利用し、東京の映像仲間「山岳映画サロン」の企画した創立25周年記念行事・ネパール・トレッキング9日間の旅へ参加してきた。初の海外旅行がネパールとは自分でも驚きであるが、毎日6時間の徒歩で数百ぼづ、登っていき、3,190mの山に立ってアンナプルナ・ダウダギリ等7~8000m級の山を直接目で見られたのにも、我ながら驚きでもあった。今まで低い山でもたいして登ったことのなかった私であるが、リーダーの適切な指導が自信をもたせてくれたのであろう。ネパールの貧しく、厳しい生活に触れてみて日本が如何に豊かでぜいたくな生活をしているかが実感できた。現地人のシェルパやポーター(荷物運搬人)達は、いずれも親切でよくしてくれたことも、私たちが安心してトレッキング(村人たちと交流しながらのゆったりとした歩き)できた要因ではなかったかと思う。カトマンズで1泊、翌日ポカラへ飛び、ここから車でトレッキング出発点のビレタンティの村まで約2時間、そこで初のキャンプを体験。以後5泊6日のキャンプ生活であったが、生涯忘れえぬ思い出の旅となった。最後はポカラで1泊後、エベレスト等を遊覧飛行しながらカトマンズへ着陸、韓国経由で大阪へ帰り着いたが、さすがに無事着陸したときはホッとした。いずれ映像作品としてまとめあげ、皆さんに見てもらおう日を楽しみにしているが、どうまとめるか、これから当分頭の痛い問題でもある。

★なにわ会館がホテル・アウィーナ大阪へ

例会場のなにわ会館の名称がこのほど改称され「ホテル・アウィーナ大阪」となった。せっかく親しめたなにわ会館ではあるが、イメージが古い、ということで変えたのだろうか。

★4月例会レポート

4月例会の第3木曜日あたりになると、さすがに気温も上昇、季節の移り変わりは正直なものである。まともでないのは政治の世界。一体何やってんだの国民の声も届かぬようだ。例会場の部屋もひと回り小さくなったので、14~5名も入ると何やら満員盛況のような気になってくる。ビデオ派の入会希望者が増えたらどないしよう、との声も…。

上映作品/8ミリの部;「雪山スケッチ」桐田氏、Su M 4分。金剛山での撮影、美しい画面だが手持ちなのが惜しい。「ゴマ供養」村田氏、Si M 7分。大山崎・天王山宝寺、暗い室内撮影はやはりビデオ向き題材か。「春の炎」江村氏、Si M 9分。淀川のよし焼きをうまく撮られている。「東京時代まつり」合原氏、Su M 14分。浅草にも時代まつりが誕生。

ビデオの部;「姫川誕生」越本氏、15分。川を主人公に見立て奥さんのナレーションで語られる努力作。「仁和寺花見風景」森氏、8分。昨年フジ撮影会作品。安定した画面はさすが。「流水を訪ねて」有村氏、10分。北海道の旅、流水編、的確なナレーションだ。「白と青」関氏 9分。いつか8ミリで見たもののテレシネ作品。今月の出席者:小倉、関、有村、金子、村田、桐田、増田、花岡、越本、前田、江村、森、春日、合原の各氏。

☆5月例会は第3木曜19日何時もの会場にて

6月例会のお知らせ

☆6月例会は第3木曜16日18時20分よりホテル・アウリーナ大阪(旧称なにわ会館)にて。フィルム作品のほか、ビデオもやっていますので、どうかお気軽に作品持参ご参集を。なお、ビデオはVHS又はS・VHS(Cカセット可)とし、8ミリビデオテープの場合はカメラと接続コードご持参ください。作品の長さは8ミリフィルムと同じ扱いとしますが、未編集ものはできるだけ避けるか、アドバイスを受けたいところだけに絞るようお願いします。例会にあってよかった、楽しかった、と言える様な集まりにしたいものです。多くの方のご参加期待します。

★5月例会レポート

このところ気持ちいい、すがすがしい天気が続く。例会の集まりもいいかと思っただ、出あしが今ひとつ。久しぶりに今井さんが元気な姿を見せられた。神経痛で長らく療養され、ハリで快癒され由。 今月の出席者：小倉、横山、増田、花岡、有村、関、合原、金子、越本、今井、江村の各氏。

上映：1、8ミリフィルム作品の部

「四季の彩り」金子博泰氏 Su M 12分40秒。作者曰く、スーパー最後の作品とか。そのせいか、作品内容を指摘されて撮り直しする気があるのか、等と冷やかしの声で大笑い。四季の彩りというからには四季に忠実に順序よく接しないでほしい、後先になったカットが目

立つ等の助言が司会の有村氏より出された。四季を色で表現しようとする狙いはよいが、実際には難しい課題のように思える。場所を一定にしたらまとめ易いかもしれない。

II、ビデオ作品の部

「美山スケッチ」今井羨美氏、6分。京都の北にある美山町にわら葺の家が多数残されていて、独特の雰囲気をかもしだしている。村の全景が狭くて撮れなかったと作者の弁。こういう作品は単なる紹介かスケッチに終わりがちなので、山場やポイントをどこに置くかひと工夫がいりそう。「有明の海苔・加工編」「同・収穫編」合原一夫氏、10分/10分。九州の故郷は有明海苔の一大産地に生まれ変わっている。今年正月帰郷して撮影されたドキュメンタリー作品。「よし刈り」有村氏。6分大阪ビデオコンテストのグランプリ作品。近江八幡のよし刈りを中心にしっとりした情感でまとめられている。尺八とギターのBGMが少し淋しいとの声も。ここで「よし」「あし」談義にしばし花が咲いた。「御楽鷹山に鐘が鳴る」越本吉太郎氏、16分。奥さんの身内の方が日航機事故で亡くなられ、毎年現地へお参りに行かれているが、8年目に行かれたときの記録。記録として奥さんの適切なナレーションがありよくまとまっている。☆今年の合同映写会について：関西シネクラブとの合同映写会は、その名称を「'94映像フェスティバル」とし、フィルム作品に加えてビデオ作品も入れ、10月28日(金曜)朝日生命ホールで行うことになった。作品ご準備の程、よろしく願います。

7月例会のお知らせ

☆7月例会は第3木曜21日18時20分よりホテル・アウィーナ大阪（旧称なにわ会館）にて。暑い盛りですが冷房完備の例会場へ、どうぞお出かけ下さい。フィルムまたはビデオ作品、どしどしお持ちください。楽しいひとときを送りましょう

★6月例会レポート

梅雨の晴れ間だが、初夏のように暑くなった例会当日「暑いでんなあ」と言いつつ、ポツポツと会員諸氏が集ってくる。久しぶりに岡本氏が元気な姿を見せられた。何しろ貴重な？若手のホープ、できるだけ顔を見せてほしいものだ。今月は旧作も含めフィルムが4本でたが、ビデオも4本でいい勝負となった。今月の出席者；小倉、増田、上総、有村、関、細見、村田、金子、森、江村、桐田、岡本、越本、花岡、合原の各氏（計15名）。

上映；I. 8ミリフィルム作品の部

- ①「ばら満開」村田英夫氏、Si M 6分。豊中市二の切公園で今春撮られた新作。きれいなばらが次々に出てきて目の保養？になる。公園名を入れた方がよいのとフィーリングという失恋の歌は合わないのでは、又入力オーバーで音が歪んでいるとの指摘があった。
- ②「ふるさと千里」細見正氏、Si M 8分10秒。千里ニュータウンに昔から残っている家があるが、高層住宅との対比が現代的。1987年、千里でイベントがあったときの記録をつない

であるが、イベントのフラメンコ踊りなどが強烈で作者の意図が伝わってこないのが残念。

③「風薫る西の京」江村一郎氏、Si M 14分。フジ撮影会作品。唐招提寺うちわ巻のラストシーンに現録があったらもっと迫力が出た？

④「夏姿郡上八幡」増田栄一氏、Su T 18分。テープ同調したとたん、テープとリーダーが剥がれたりしてトラブル発生。一瞬テレコの故障かと操作係をヒヤッとさせる一幕も。14年前の作品だがナレも適切でよくできた作品。

II. ビデオ作品の部

①「りずむいん・はあばあらんど」4分10秒。カタカナも平がなにすると違った印象を受けるものだ。もっとも理解するのに少し時間がかかるが。フィルムに較べ音質の良いのはさすがビデオ。リズムカルなテンポの良いBGMに合わせて細かく編集されているが、その技術は一寸真似できない特技？しばし話題が尽きなかった。

②「冬の漁港」有村博氏、6分。昨年鳥羽で撮影、お得意のインタビュー形式でわかめ、かきの収穫状況を追っておられる。ビデオらしく気軽にまとめられた作品。

③「夢待草」森保信氏、4分。氏が始めてビデオで撮った思い出のフジ撮影会歌謡ビデオ。画面の下に歌詞がテロップされたらカラオケビデオに早替りしそう、とひとしきり雀の声。

④「東京ディズニーランド・ビデオ便り」越本吉太郎氏10分。楽しい奥さんとの同行記、お孫さんでも入っていれば、との声あり。

★フェス出品予定者は7月25日までに、小倉会長まで、題名、8ミリかビデオかの別、予定時間等を同封別紙でお知らせ下さい。

8月例会のお知らせ

☆記録破りの猛暑が続いておりますが、皆さん元気で何とかイキついておられることと思います。8月例会は第3木曜18日、18時20分より、ホテル・アウリーナ大阪（旧称なにわ会館）にて。まだ暑い盛りですが冷房の効いた例会場へ、どうぞお出かけを。フィルムまたはビデオ作品もどしどしご持参ください。

★7月例会レポート

今年の夏は例年になく暑く、しかも雨が降らないとあって四国を始め各地で水不足で大変らしい。ここ大阪はまだそれほどの心配はなさそうだが、この暑さはこたえる。しかし例会場は涼しさ一杯だ。

フィルムは今月は出ないかも知れないなあと映写機の段取りも控えていたところ、増田さんが「出すゾ」と一言、あわてて映写の準備を始める一幕も。一方、ビデオ作品は大盛況。小倉会長がビデオ初出品など話題も十分。

今月出席者；小倉、増田、上総、有村、関、越本、森、前田、金子、花岡、岩井、江村、合原の各氏（計13名）

1. フィルム作品の部

「伝統を守る人々・志摩」増田氏、Su T 16分40秒。何年前の作品との問いに「判らん」との答えだったが10数年前の作品か。作者のまだ若い？頃の努力作、よく出来た作品だ。

「初夏」江村氏、Si M 5分30秒。遅れて来られた江村氏がフィルム新作を提供されて、ようやくフィルムの部がかっこうついた。フィルム新作が期待できるのは江村、細見、村田、金子の各氏ぐらいとなってしまう淋しいが、ぜひ頑張ってもらいたい。さて、作品だが奈良の寺を題材にとったスケッチだが、どうも題名がびったりこないとの声多し。

II. ビデオ作品の部

「川のある風景」小倉氏 7分 0秒。「ビデオは新米でなので…」と作者、テスト作品とはいえ、さすが8ミリで鍛えた腕前は、とても「初心者」では通用せぬ貫祿あり。淀川ペリでの風景、小鳥、花などをしっとりとした情感でまとめられている。「故郷廃屋を訪ねて」森氏 8分。泉北撮影会作品、女タレントを使ったドラマ仕立てだが少々無理した？。もっとも作者の責任ではないが。「冬枯れ」前田氏 7分。BGMも自演される熱の入れようだが少し淋しいとの声も。画面は再編集後の再出品もので、大分よくなっている。

「無題」上総氏13分。お孫さんの入学式風景で、作品化についてひとしきり話題となった。「花博アラカルト」有村氏 5分20秒。花博の演奏ロボットをメインに、いろんなイメージカットをインサートした作品。楽しく拝見。「大坂城・城石考」合原氏 9分20秒。OVC撮影会作品。大坂城の石をテーマにしたもの「阿騎野が原」関氏 6分。奈良県大宇陀町にて。しっとりとした情感でまとめられた秀作。「ビデオレター」越本氏 9分。NHKや京都放送で氏の作品が放映、頑張れ越本夫妻！

'94映像フェスティバルプログラム

▷8 ミリフィルムの部

- ① 秋のあめりか旅行 土井 由一 作品。
ミネアポリス周辺とグランドキャニオンを訪ねて。
- ② 初ごまに淡雪まう 村田 英夫 作品。
箕面、勝尾寺の初護摩風景。
- ③ 天 平 の 面 影 金子 博泰 作品。
奈良東大寺と二月堂の松明を描く。
- ④ 新 曲 誕 生 山田 吉男 作品。
アマ作曲家が知的障害者らと作った新曲の披露までを描く。
- ⑤ ネパール・トレッキング紀行 合原 一夫 作品。
ゆっくり、のんびり、山あいを歩きながら感激にひたる作者。

▷ビ デ オ の 部

- ⑥ ト ル コ に て 上総修一郎 作品。
イスタンブールとカッパドキア地方の人びと。
- ⑦ 真 冬 の 北 国 有村 博 作品。
冬の北海道を訪ねた作者夫妻と珍しい動物との出会い。
- ⑧ 風 舞 本田 裕信 作品。
風がかもし出すさまざまな形を映像詩としてまとめた。
- ⑨ 冬 の 湖 関 剛 作品。
湖北の冬。厳しい自然のなかで、伝統の琴糸作りは生きていた。
- ⑩ 御巢鷹山に鐘が鳴る 越本吉太郎 作品。
日航機事故に遭った肉親を偲んで御巢鷹山に奥さんと登る。
- ⑪ 太 古 の 大 地 小倉 宝蔵 作品。
オーストラリアの北の端に太古の自然が生きていた。

9月例会のお知らせ

☆9月例会は第3木曜15日18時20分よりホテル・アウィーナ大阪（旧称なにわ会館）にて。祭日で旅行やハイキングなど何かとご予定のことと思いますが、楽しい夜のひととき、月1回の例会に何とぞお出かけ下さい。フィルムまたはビデオ作品、どしどしお持ちください。

今年の夏は本当に暑かったですね。9月というのにまだ残暑が続いていますが、さすがに朝方は涼しさも感じるようになりました。

これから秋本番に向け映像づくりの季節、フェスティバルも近づいています。一作でもいい自分に納得のいく作品をモノにしたいものです。

★8月例会レポート

甲子園の高校野球たけなわの例会日、この日、大阪代表北陽高が負けて関西勢がすべて消え去った。暑さが何かを狂わせたか。会員諸氏の集まりがパッとしないが6時50分開会宣言。出席；有村、小倉、岡本、上総、金子、桐田、合原、関、花岡、村田、増田、森の各氏（12名）

1. フィルム作品の部

「ぶろむなあと・こうべ」関氏、SuT 10分40秒。前々回「りずむいん・こうべ」がビデオで出たのでそのフィルム版かと思ったが、構成が違うと作者。しかし同系統の作品と拝見

す。ダブルランのフィルムがあと2本（1本が4本分）あるので、あと何かを撮って8ミリフィルムとはさようならとか。それにしても関さんの神戸へのほれこみようは大変なものだ。「嵯峨野の夏」村田氏、SiM 6分10秒画面の右端に茶色の線が連続して出るのは、映写機のせい、しばし原因につき意見続出。結局明確な答はずじまい。シングル8カメラにC2フィルターをつけて撮られているが、逆ではないかと会長の助言あり。「源氏まつり」金子氏、SuM 6分45秒。多田神社（川西市）祭礼の記録。BGMのイメージが合わないのでは、といろいろ意見が出た。「嵯峨野路」合原氏、SiM 13分40秒。14～5年前の作品。今は池の周りにぎっしりと家が建ち、この作品のような風景は撮れないと話題に。

II. ビデオ作品の部

「泉州恋女房」森氏 4分50秒。フジの撮影会作品で歌謡ビデオ。例によって女の子を使っているが恋女房というより親子じゃないかと冷やかしの声も。また、ゆかたにタビはおかしいとの指摘も。「ジャンプ台」有村氏、7分20秒。上映したとたんノイズが入って画面が見づらくなるハプニング。家でうつすときれいにうつるそうで、VTRとの相性が悪いのではという声もあったが、相性次第というのは困ったものだ。作品は20年前、現地を訪れたときとの対比で構成されているが、構成にもうひと工夫欲しいところだ。「イスタンブールからカップドキア」上総氏、17分。単なる観光映画でない作品に仕上げられているのはさすが。腹痛に悩まされた話題性充分。

10月例会のお知らせ

☆10月例会は第3木曜20日18時20分よりホテル・アウィーナにて。猛暑がウソのよう、秋らしくしのぎ易い気候となりました。フェスティバルを控えています。今月も例会を行います。どうぞお出かけ下さい。作品をお持ちください。

★9月例会レポート

例会日は敬老の日、かえって集まりが心配されたが14名の集まりと、フィルム1本、ビデオ5本でまますの例会となった。フィルムは村田氏の1本だけだったが、よく頑張ってくれてはる。フィルム派だった江村氏が、最近ビデオカメラを買われたとか、これで8ミリフィルム派がまた一人減った…? 開会前のひととき、話題はビデオの話ばかり…。

▶開会にあたり小倉会長より公開映写会の件について報告あり。準備会の結果、出品を希望された方の作品は、従前なら選ぶのに苦労したが、今年も選ぶほど集まらず、全て上映されることに。フィルム5本、ビデオ6本、計11本。OMCとしては初のビデオ併映になる。作品レベルの維持向上が今後の課題になりそうだ。10月28日朝日生命ホールにて。

▶今月の出席者：有村、岩井、江村、小倉、岡本、上総、桐田、合原、越本、関、花岡、森、村田、増田の各氏。

上映作品： I. フィルム作品の部

「初ごまに淡雪まう」村田氏、Si M 6分15秒

勝尾寺の初ごまで、寒いときに行かれて良く撮影されている。BGMの音が歪むような感じで気になるので再録音されては、絵はよいのでいい作品になろう。

II. ビデオ作品の部

「鳴門見物」森氏、6分35秒。フジの世話役たちと同行撮影、渦潮が“ざわめき”程度なので迫力がいま一つなのは残念。選曲につきよく知られた曲は損だと指摘あり。「大好き／我が町」越本氏、14分45秒。長岡市の観光ビデオコンテストで大賞をとられた作品とか。奥さんの適切なナレーションで要領よくまとめられた。「ちかごろ・上野公園」合原氏、8分30秒。上野公園の休日は外人も含めてパフォーマンスの花盛り、作者としては数少ないノンナレ作品。「真冬の北国」有村氏、14分20秒。厳寒の北海道、鶴、流水等苦労して撮影されただけに素晴らしい画面が続く。それだけに撮影中の「解説」についていろいろと意見が出された。練り上げたナレーションがよいのでは、という声も…。「太古の大地」小倉氏、19分15秒。オーストラリア北部のまだ日本ではよく知られていない自然の宝庫を撮影紀行。珍しい動植物、自然が素晴らしい。いろいろと二次会も含めて話題の多い作品だった。

★東京アマチュア映像祭でシャープのビデオ投影機XVT2 Z型に長焦点ズームレンズを(22万円もするとか)つけて安田生命ホール客席中央付近から投影されていたが、大映写(幅4.3m)にもかかわらずその明るさにびっくり。ビデオ技術の進歩に驚く(合原)。

☆今月から新年度。会費の納入をよろしく。

11月例会のお知らせ

☆11月例会は第3木曜17日18時20分よりホテル・アウィーナ大阪にて。さわやかな秋、月1回の例会を楽しくやりましょう。作品お持ちください。会費未納の方よろしくお願ひします。

▶フェスティバル盛会でまずは乾杯

今年のフェスティバルは、当日夕方より小雨模様などで入り心配されたが、出足もよく会場をほぼ一杯にするほどの盛会でほっとした。今年からビデオ併用となったがシャープ株式会社より提供していただいた最新式のプロジェクターが驚くほどの明るさと鮮明さであった。技術の進歩は著しいものがある。関西シネクラブとの共同映像フェスティバル来年は何本の8ミリフィルムが出るか判らないが、ビデオ映像が良くなるとフィルムの独壇場であった大映写効果の良さも、差がなくなってしまうとの印象である。何はともあれ無事終了してまずは乾杯!

▶OMC存続の為に皆様の更なるご協力を

OMC会計が危機を迎えている。去る10月16日行われた世話役会で今後のOMCのあり方も含めて意見の交換がなされた。現在名簿では23名載っているが会費納入者は実質20名1人1万円として20万円の収入である。例会会場費は年18万円位、フェスティバル分担金6万円を加算するともう運営が成立しなくなる状況である。おまけにSデッキの整備も

課題である。そこで今後の方針として

- ①フェスティバルは今後も行う。
- ②例会で8ミリフィルムの上映は行う。
- ③Sデッキの整備を行う。越本さん提供のデッキの調子が悪くなったのでメーカーに見てもらい、ダメなら購入する。
- ④できるだけ新規の会員を増やす。木曜の夜が例会なので難しい面があるが、作品作りに熱心な方を勧誘したい。
- ⑤そうはいつても会員が減ることはあっても増えることは期待できないので会費アップをせざるをえない。

等が示された。会費アップで更に会員が減ることも予想されるが最低15名は残っていただけるものとして計算すると、年間必要経費を安心して賄うには1人年間およそ2万円となる。半期1万円は心苦しいがぜひ苦境をお察しの上ご了承願ひます。10月例会にご出席の皆様には早速会費納入とデッキ購入カンパ(1口5000円以上)にもご賛同戴き、心よりお礼申し上げます。これからもより質の高い映像集団として、また、何処よりも楽しい会として発展させていきたいものです。

▶10月レポート

すっかり秋の気配となった20日、14名の会員と神戸よりのお客様、本田裕信氏を迎えて例会が行われた。冒頭、上記のような問題が図られたが、会員諸氏の快い賛同を得て早速会費納入が行われた。新年度の世話役はほぼ前年度通りだが、相談役を廃止し、上総氏に企画をお願いするなどの若干の修正が行われたことが小倉会長より報告があった。

▶新世話役

会長兼総務 小倉宝蔵。(以下敬称略)

副会長 関剛。

会計 増田栄一。

企画 上総修一郎、関剛、岡本至弘。

広報 合原一夫、細見正。

例会司会 有村博。

映写 前田茂夫、岡本至弘、有村博。

合同映写会実行委員

小倉、合原、有村、前田。

▶10月例会上映作品

今月は8ミリフィルムは合原氏の1本のみ
に終わった。江村氏がとうとうビデオに転向
され、ビデオ処女作を持参された。いよいよ
ビデオ花盛りのOMC例会である。

(出席者)有村、岩井、江村、小倉、上総、
金子、合原、越本、関、前田、増田、村田、
森の14氏およびお客様本田裕信氏の15名。

1. 8ミリフィルムの部

「ネパール・トレッキング紀行」合原一夫氏、
Si M 18分50秒。氏の初の海外旅行作品で
フェスティバル出品作。対象の珍しさでいわ
ゆる海外旅行ものと一味違った作品になって
いる。ビデオと両方持って行ってどっちつか
ずの撮影になったと反省の弁あり。

II. ビデオの部

「近江八幡を訪ねて」森保信氏 6分。泉北ビ
デオクラブ撮影会作品。水郷の夏と近江八幡
の旧家などしっかりとした情感で描かれてい
るが、「訪ねて」となるとナレーションが欲
しいところだ。「よこさい」江村一郎氏、5
分。江村氏のビデオ第一作。まだインサート
編集もままならないとのことだが、江村さん
らしいカットは、さすが8ミリで鍛えた腕前
が散見される。今後が楽しみだ。「水辺の
詩」有村氏、3分。美しい上高地の風景、ラ
ストシーンの朝もやが印象的。きれいな画面
だけに、風景のアップが少ないことと、常識

から少し抜け出してみても等なきびしい意見も
出された。「おばあちゃんの休日」越本吉太郎
氏、5分。奥さんが主役で白馬村へ行かれたと
きの記録だが、主人公の紹介(顔を出すなど)
は早めに出されたほうが見えて分かりやすい
と思う。盆踊り、花火など楽しかった思い出の
記念アルバムといったところ。「空から見た北
アルプス」前田茂夫氏、6分。北海道帰りの飛
行機の上から撮影されたが上天気恵まれ、北
アルプス連峰がよく見える。テロップで山の名
前が出るがよく調べられたものだ。乗客のお
しゃべりも雰囲気が出てよい。「冬の湖
(うみ)」関剛氏、9分30秒。フェスティバル
出品作。ノンナレの映像作品にしては9分を超
えると長すぎるのではないかと思っていたが、
これは長さを感じさせないだけの内容があり、
素晴らしいカットがBGMと共に盛り上げてい
る。この作品、音楽を先に決めて音に合わせて
画を編集された由、もっとも琴糸づくりの場面
については意見がいくつか出された。いずれに
してもフェスティバルでは話題作となろう。

▶フェスティバルに祝電をいただきましたの方々
です。ありがとうございました。(順不同)

- ・シングル8友の会大阪支部様。
- ・映像銀の会様。
- ・東京アマチュア映像連盟会長 川上勝晤様。
- ・中部映像集団 加藤芳穂様。
- ・虹の会会長 加藤雅巳様。
- ・神戸小型映画友の会様。
- ・明舞ビデオ友の会様。
- ・東京 浜田かおる様。
- ・別府 横山喜三郎様。
- ・川畑秀樹様。

▶新年懇親会の日時が決まりました

関西シネクラブとの合同新年懇親会は昨年同
様ホテルアウィーナ大阪で'95年1月22日
(日)午後6時より行います。予定に入れてお
いて下さい。

12月例会のお知らせ

☆12月例会は第3木曜15日18時20分より

ホテル・アウィーナ大阪にて。師走で何かとお忙しいでしょうが、今年最後の例会です。楽しいひと時を過ごしましょう。今月に限り206号室になります。要注意。

▶ビデオデッキ買換え免れる

越本さんよりご提供いただいていたビデオデッキの調子が悪く、ノイズが出るようになったので、新品に買い換えようかと相談していたが、念のためメーカーに見てもらったらハンダ付けがはずれていたという単純な故障であった由。おかげで立派に映像が再生出来るようになってヤレヤレとひと安心。

▶村田さんの奥さん亡くなられる。合掌。

かねて、村田さんの奥さんが倒れられて入院中と聞いていたが、先日ご本人より喪中挨拶状が来てびっくり、細見さんに確認の電話を入れたら11月18日にお亡くなりになったとのこと。ここにつつしんでご冥福をお祈り申し上げます。この上は村田さんも早く元気を取り戻して以前のように8ミリ作品にも取り組んで頂き張りのある人生を続けてほしいと願わずにはられません。(合原記)

▶11月例会レポート

さすが冷え込むようになってきた。今月は久しぶりに花岡氏の顔も見えられたが、総じて集まりがいまひとつ。今月は毎月シングル8作品をご出品いただいていた村田さんが、

奥さんの具合が悪いとあってご欠席、しかも江村さんもビデオへ転向というわけで、フィルム作品は合原氏の新作「八重山の旅」1本のみとなった。まだ1本でも出るだけマシ？出席者：有村、岩井、江村、小倉、桐田、関合原、花岡、増田、森の各氏（以上10名）
上映：I. 8ミリフィルム作品の部

「八重山の旅」合原一夫氏、Si M 11分。今年2月に石垣島を始めとする八重山諸島へ夫婦で東京の撮影会に参加されたときの記録。現地の女性が奏でる琉球琵琶の音に合わせた踊りや、水牛車に揺られてゆったり島内をめぐるシーン等情緒たっぷりの旅情編。

II. ビデオ作品の部

「ネパールトレッキング紀行」合原氏28分。28分という例会に相応しくない長編のため他に出品数が多いとささないつもりで予備に持参されたが、この日はビデオ作品が少なかったため日の目を見た。公開映写会ではフィルム作品だったが、これはビデオ篇。ネパールトレッキングの雰囲気が伝わってくる作品。「祭り」江村一郎氏7分。近鉄花園駅に近い津原の夜祭を撮影、夜とは言え、きれいに撮れている。フィルムではライトがない限り無理な題材だ。「雑種のボク」有村博氏10分。雑種の子犬を貰ってきてわが家で飼うことになり、作者は子犬になりかわっての目で語っておられる。愛すべき作品だが、どうせならカメラも子犬の目線で“ご主人様夫婦”を見上げて撮った方がよかったのではないかと。

時間が余ったのでビデオ技術論の質疑あり時ならぬホワイトバランス勉強会となった。

ホワイトバランスの知識

「日本カメラ社・初心者のための
ビデオ撮影Q&A」より抜粋

▶ホワイトバランスとは何か

人間の目は便利で、太陽や蛍光灯などどんな光源の下でも白いものは白く、赤いものは赤く見えるそのため普段は「光の色」について意識しないが、光にはそれぞれ特有の色があり、実際には物の色もあたっている光源の色によって変化しているものである。

一方、人間の脳は、リンゴは赤いもの、レモンは黄色いものだと学習しているため、その先入観をもとに見ているのである。ところがビデオカメラは人間の目や脳のように器用なことは出来ない。光や物の色の変化を忠実に映し込んでしまう結果、不自然な印象の画面となってしまうことも多い。

そこで、ビデオカメラの色の再現性を電気的に、あるいは内蔵フィルターによって補正し、白い色を白く映し出すように調整することを「ホワイトバランスをとる」といっている。色再現性の調整基準色に白色を使うのはビデオでは光の3原色である赤、緑、青(RGB)が一定の割合で混じり合ったときに正確な白になるためである。

このホワイトバランス(白バランス)の調整は、ビデオカメラが自然で忠実な色再現をするために欠かせない機能である。ほとんどのビデオカメラのホワイトバランスの調整は、オートホワイトバランス(AW)になっているので、通常の撮影では気にせず撮ることが出来る。オートホワイトバランスは自然追尾式とも呼ばれ、撮影場所を移動したり、光線状態が変化しても、カメラが自動的にその

変化に対応して電氣的に調整してくれるのである。ビデオカメラも随分進歩したものだ。

▶夕景などはオートではかえって不自然

オートホワイトバランスのままだと、カメラの方が自動調整してしまうので、夕景などはかえって赤みが消えて不自然に感じてしまう。こういうときはオートまかせでない方がよい。ほとんどのビデオカメラはオートホワイトバランスのほかに屋外(太陽光)、屋内蛍光灯などの切替えスイッチを用意して、撮影場所に応じてホワイトバランスを手動でセットできるようにになっている。これをプリセット(あらかじめ設定するという意味)という。太陽マークや電球マーク、蛍光灯マークなど絵で表示されているのが多い。夕方の撮影は太陽光に、蛍光灯室内では蛍光灯マークに合わせるとより自然な雰囲気撮影できる。光源が太陽光と電球とミックスの昼間の室内撮影では「電球マーク」がよいとされる。

▶マニュアルで合わせる方法

これはマニュアル機構のついた機種に限られる。業務用・放送用ビデオカメラはマニュアルホワイトバランス機構を搭載している。

より正確な色再現を望む場合に、マニュアルでホワイトバランスをとりたいときの合わせ方は、まず、画用紙程度の大きさの白い紙や白い布などを用意して、それをファインダー一杯に映し込んで、ホワイトバランスをとる専用スイッチを5秒間ほど押す。すると、その場の光源の色温度に応じて、もっとも白い色が正確に出るように電気回路が調整される。マニュアル・ホワイトバランスが手軽に調整できるように専用の白キャップがついたビデオカメラもある。このキャップをレンズにかぶせてスイッチを押せば簡単にOKだ。

ただし、どこまでこだわるかの話だが…。